

Please Help to Save Alvar Aalto's "church of three crosses"

なんて遠いでしょう。

私が今回の旅で絶対に見たいと思っていたアルヴァ・アールトの設計による「スリークロス教会」は、あまりにも遠く人里離れたところに建っていました。ロシアとの国境近く、ヘルシンキから特急で3時間ほどのイマトラという街からさらに車で移動しなくてはなりません。でも、その訪問は私の貴重な休暇の1日を費やすだけの価値がありました。

2017年10月のシーズン後、初めてのフィンランドへの旅で、私は何度も試みた結果、通訳とガイドの付いたツアーに参加することができました。

やっとたどり着いた教会は、正直なところ少しボロボロ、'ロ'に見えました。霧雨の降る中、通訳を待っている間、建設作業員のような人が行き過ぎましたが、他には何もありませんでした。辺りは静まりかえっていました。

やがて近くの自治体に住む通訳の女性が到着すると、通常はフィンランド語からロシア語に翻訳するのが専門だという彼女は、私のために親切にも英語を試すことを申し出てくださいました。彼女は私に教会の牧師を紹介しました。驚いたことに、さっきの作業服を着た人が牧師さんだったのです！



ツアーが始まりました。牧師はアールトの教会について語ります。建物に使われている素材にはヒエラルキーがあり、神聖なものは大理石で、世俗的なものは木でつくられています。教会は礼拝堂としてだけでなく、地域の施設として多目的に使用できるように（時にはバスケットボールをするジムとして使われることもあるそうです）、3つのエリアに分割されています。アールトは、このエリア同士が互いに干渉するのを避けるために魅力的な可動壁を構築しました。

残念ながら、この日は地域で頻繁に起きる停電が発生して、厚さ40センチもあるという可動壁がどのように閉じるか、見ることができませんでしたが、牧師さんは機械室を見せてくれました。

造船の技術を使ったと思われる建造物。

教会の中でバスケットボール。

そして作業服を着ている神父さん。とても面白い！

さて、ここからが旅の本番です。ツアーの通訳者は、私の本来の目的のために仕事を開始します。

私と牧師さんは、彼らが修繕しようとしている教会への構造的損傷の問題について話し始めました。気候変動によって引き起こされた暖冬は、屋根の雨漏りや窓ガラスのひび割れ、壁や断熱材内の結露をもたらします。

小さな修理でそれに立ち向かうことはできません。全体的なオーバーホールのための資金が必要で、計画はすでに出来上がっていますが、毎年、資金はアールトの別の建造物の修繕のために送られてしまうため、「3つの十字架の教会」の牧師たちは希望を持って戦い続けているのです。

(やっぱりここは遠すぎて、来る人がいないのでは.....) 一瞬、そんな思いがよぎります。でも、私は考え続けています。世界中には多くのアールトファンがいるので、資金集めはそれほど難しいことではないはずだ、と。

牧師さんの案内で私たちは死者への最後の別れが行われる地下室に向かいました。棺が置かれている床は大理石でできています。他はすべてレンガ又は木です。わかりやすい素材の使い方によって死者への尊厳が伝わってきます。教区の部屋に進むと、アールトがデザインした有名な椅子や机のプロトタイプ、牧師の椅子が置かれています。（博物館にあってもいいような貴重な家具たち！）

ここで、通訳の女性は子供たちの元へ戻らなければならず、私は1人で教会を歩き回ることになりました。
美しいラインを描く壁からは石膏が剥がれ落ち、あちこちにカビが見られます。
悲しくなりました。
これは絶対に見なければいけない教会です。
アールトの最高の作品の一つであり、彼の傑作。

出発する前に、建設作業員である牧師さんに挨拶に行きました。彼は私を教区の家に招待してくれました。この建物もまたアールト作品。とても人間的で気持ちのいい家です。
くつろいだ様子の私を見て、牧師さんは微笑みました。司祭も。
彼らはフィンランド語しか話せず、私はフィンランド語はまったくわかりません。でも、私は気候変動によって破壊されている美しい重要な建物を見て、彼らの心配ごと、教会を愛する気持ちも、痛いほどにわかりました。

ふだん、私はあまり建築を見に行くことはありません。自然や通常の観光名所に行くことを好みます（毎日、建築に浸ってますから、休暇はそれでいいですね？）。私はアールトの特定のファンではありませんでした。というより、実際には私はどの建築家の本当のファンでもありません（イームズはちょっと好きですけど）。でも今回、アールトの建物を一つ一つ訪問しながらフィンランドの自然を巡るこの素晴らしい旅で、私はアールトがどんどん好きになっていく自分に気づきました。
私は彼の建築がとても人間的で、非常に特異で、時には利己的であることに気づきました。その発見は、私を楽しく、いい気持ちにさせてくれました。
オーロラを見るためにロヴァニエミに行った時、私はもちろん空の光の遊びに酔いしれましたが、アールトの図書館の光にも同じように感動しました。
私は今、立派なアールトファンと言えるでしょうか？ まだ正確にはわかりませんが。

セミナーでは、ときどき持続可能性について話します。エネルギー効率の高い建物、100年持つ建物など。しかし、建築も気候変動の影響を受けていることに実際気づいたことはありませんでした。

建設時には確かに正しかったはずの詳細と施工技術で建てられたものが、現在、さまざまな気候条件のために欠陥のある建築物となっています。これは私にとって最愛の、そして、とても慎重に計画された建物が崩壊するという事実につながります。20年後、今建てている素晴らしい建築すべてに何が起こるか……その不安がいつも私の頭の中をグルグルと回っています。

それで、私はいつものように結果を考えずに行動に移すことにしました。

「3つの十字架の教会」への資金提供者をすでに見つけているかどうかについてaalto財団に問い合わせた後、2018年のエネルギーツアーの一環として、資金提供プロジェクトについて知るために、誰か私とヘルシンキで会ってくれるかどうかを尋ねました。

2018年10月、私は教会の修理費について、aalto財団のディレクターであるJonas、建築家であり計画と改修を担当する Niina、そして「スリークROSS教会」のディレクターであるPasiに会うことができました。

そこで私は、日本の私たちアールトファンがこの教会を救うことを約束したのです。

すごい！ 無責任？ おそらく。でもポジティブ。YES!

きっと私たちはそれを実行することができます。



今、直面する難問は――

コスト。より適切に言えば、財政的に必要なもの。私が尋ねた時、彼らは遠慮がちに「30万ユーロ（約3720万円）くらいあれば」と答えました。しかし、それで十分だとは想像もできませんでした。「60万ユーロあったら非常に満足です。それなら屋根を修理して、壁も少し直すことができます」と。でも、それらを実施したら100万ユーロを超えるはずで

建築家のニーナは言いました。

「日本をはじめ世界で60万ユーロを調達してもらうことができれば、地域全体の姿勢に影響を与える可能性があるという考え方も付け加えておきたいと思います。これによって、この建物の修復作業にどのように資金を提供すべきかについての新しい洞察が得られる可能性があります」

私が見たところ、目標額が1億円であることは明らかです。

それが大変な金額であることはわかっていますが、例えば1万人の人が1人1万円ずつ寄付してくださったら可能になるでしょう。そして「もっと！」という強い思いの方がいらしたら、もちろん大歓迎。

私たちはすでに社団法人を立ち上げて、口座も開いており、すぐにも活動を始められます。

将来のすべての建築家のためにデイズの建築遺産を保存するために、私たち全員が力を合わせなければいけない時がやってきました。

白い壁のこの神の家は、支援と慰めを求めているすべての人にとって、コミュニティの重要な部分を形成しています。

おそらく、将来、アールトの建築を巡るツアーのガイドや通訳者は、教会に刻まれた私たちの名前を見つけて、日本から届けられた私たちの団結の心によってこの教会が再び新しい光の中で輝くことになったいきさつを、訪れた人々に伝えてくれることでしょう。

「スリークロス教会」は再び必見の教会になります。

彦根アンドレア



Three Cross Help

. Your small actions can have a big impact!